

和鉄の道・Iron Road・製鉄関連遺跡を訪ねて 2018 掲載記事目次

わてつ みち
和鉄の道 ・ Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」
日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒットaitが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の模索が続き、その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本の国造りを作ってきた。

そんな今、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。

製鉄炉は生産された鉄塊の取り出し毎に壊されるので 製鉄関連遺跡に残っている遺構はそんな生産設備の残骸。 製鉄関連遺跡にはそんな遺構・生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマ・歴史が周りの美しい景色とともに埋もれて残っています。

日本で繰り広げられた数々のドラマ そして その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地をCountry Walk しつつ集めています。

鉄は「文化」をはぐくむとともに数々の「戦さ」をも生んだといわれる。それだけ 鉄の力の大きさの証明であり、そうだろうと思いますが、大事なものは それを使う人々の力・心。

その根底には日本人の心の故郷「心優しき縄文の世界」がある。

「鉄」の持つ魅力 「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」
その美しさをこれからも大事にしたいと思っています。



徳島大学「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポジウム



古代大規模の鉄の産地 近江・清見町・大津市・紀伊



古代 船越の大規模コンクリート 紀伊 船内川流域の遺跡群



砂鉄採取の禁止が続く穂積高原 奥出雲 紀伊道神地区工事でたたら遺跡々と



和鉄の道・Iron Road 2018 たたら遺跡探訪 掲載記事目次

- ◆ 和鉄の道・Iron Road 口絵 18iron00.pdf
- 1. 資料 和鉄の道 鬼に関する掲載記事の再整理 2018.2.3. 18iron01.pdf
 - 2018年節分に 仲間としての鬼に思う - 鬼にされた製鉄集団 -
 - A. 神戸の鬼 関西での伝承
 - B. 日本各地 鬼伝説 和鉄の道・Iron Road 掲載リスト 整理
- 2. <<NHK BS ドキュメンタリー-「南極 氷の下のタイムカプセル」>> 2018.3.5. 18iron02.pdf
 - 鉄の惑星「地球」35億年前 現在の生物起源に遡るIron Road の絶景
 - 光合成を初めて行い、大気酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界
- 3. 卑弥呼の時代を解き明かす? 神戸新聞より 2018.3.23. 18iron03.pdf
 - 淡路島弥生後期の大山間地集落群淡路市舟木遺跡
 - 弥生期の鉄製ヤスが出土 海の民や北部九州とのつながりを示す?
- 4. 【情報紹介】西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要レビュー by Mutsu Nakanishi 2018.5.5. 18iron04.pdf
 - 1. 兵庫県立歴史博物館 ひょうご歴史研究室編
 - 『ひょうご歴史研究室紀要』第3号特集「播磨のたたら製鉄」刊行の紹介
 - 2. 和鉄の道・Iron Road 西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要 レビュー
 - ◎「たたらのはるさと」 兵庫県西播磨県民局発行
 - ◎和鉄の道・Iron Road 西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要 掲載記事リスト
- 5. 湖北 伊吹山山麓 近江国 旧坂田郡に残る金太郎伝承 2018.6.1. 18iron05.pdf
 - 旧坂田郡 長浜市 旧坂田郡 長浜市西黒田
- 6. 海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の拠点集落
【津名丘陵 舟木集落遺跡 弥生後期・終末期】現地探訪 2018.8.29. 18iron06.pdf
 - 1. 淡路島の西北部の狭い海岸に点々と続く野島海人の郷「野島」
弥生後期の製塩工房 貴船神社遺跡 淡路市野島大川海岸
 - 2. 弥生後期 鉄器など生産工房を持つ淡路島山間地集落群の中心 交易拠点「舟木遺跡」
野島海岸を見晴らす津名丘陵の頂上部 樹木に包まれた古代から続く淡路市舟木集落
- 【参考】インターネット検索 & Iron Road 資料整理
PDF 「国生み淡路島の実像 -津名丘陵山間地集落群の中心集落 舟木遺跡 概要-」
<http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1809awajifunakiwebkensaku.pdf>
- 7. 古代たたら故郷 湖北 伊吹山山麓 たたらの里に眠る「金太郎」伝承 walk 2018.11.12. 18iron07.pdf
 - 伊吹の里 & 長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)
 - 1. 正面に巨大な伊吹山がそびえるたたら郷 米原市伊吹の里
 - 2. 南北に長く寝そべる丘 臥竜山の山裾に点々と連なる金太郎の里集落
長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)
- 【参考】「近江の鉄」 和鉄の道掲載リスト by Mutsu Nakanishi
古代鉄の先進地 近江の鉄 掲載記事を書き出してみました
- 番外 日本人の心の故郷 縄文 北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に
<http://www.infokkna.com/ironroad/prezen/2008jyomon/jyomonslide.htm>
一万年も平和で豊かな生活が続いた世界に類のない日本の「縄文」社会
そのエンジンは「他人を思いやる心」だったのである。
 - ◆ PDF 縄文帰りの勧め ◆ 縄文の心を映すストーンサークル

和鉄の道・Iron Road たたら製鉄関連遺跡探訪 2018

2018年掲載ピックス

西アジアで生まれた人工鉄がユーラシア大陸を東遷し、中国・朝鮮半島にわたってきた鉄器・人工鉄の生産技術が「何時・どのように日本海を渡り、そして たたら製鉄の源流となったのか……」
 「和鉄の道 もっと直接 鉄の謎に迫りたいなあ」と毎年抱く「解けそうで解けない鉄の謎」。
 道はまだまだ。でも 2018年 いろいろ新しい「和鉄の道」を眼にすることが出来ました。

● 鉄の惑星「地球」35億年前 現在の生物起源に遡るIron Roadの絶景 ≪NHK BSドキュメンタリー「南極 氷の下のタイムカプセル」≫

南極氷の下のタイムカプセル 光合成を初めて行い、大気酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界



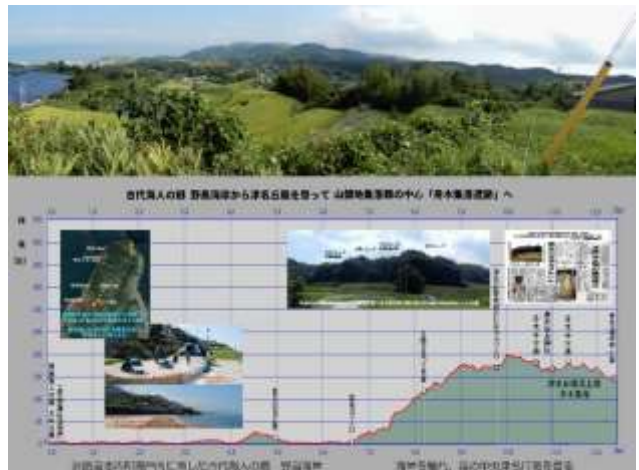
南極の氷に閉ざされた誰も何もいない湖の下で もくもくと酸素を生み出す原始生物シアノバクテリア。
 鉄の惑星 地球上で、35億年前その鉄の助けをかりて豊富にあった水と炭酸ガスから、太陽のエネルギーで光合成を初めて行い、酸素を大量に放出。生命を維持するのに必要な有機物を得て、限られた環境でしか生きられなかった世界を大きく拡大した。その後、シアノバクテリアは進化して、植物の中に入り込み、葉緑体に。
 一方 有機物を酸素で分解する動物たちも、その進化を急速に早めた。現代の地球上に存在する動植物の起源がこのシアノバクテリアにあるとされるゆえんである。また、この光合成の過程でシアノバクテリアは水中に大量にあった鉄を酸化させ、沈殿させ、現在の縞状鉄鋼床を作り、現代の製鉄を支えている。
 いわば、35億年前にさかのぼるIron Roadの絶景が今も氷に閉ざされた南極の湖の底に今も生きている。
 現世の生物そしてその頂点にいる人間の存在もまた、現代社会の繁栄の礎となった大量の鉄鉱石もこのシアノバクテリアにつながっている。もう びっくりを通り越し、今こんな世界を見られることに興奮。テレビの世界に釘付け。
 鉄の惑星「地球」で「鉄」が演じる「もし地球上に鉄がなかりせば…」のすごい役割の始まりを見るのも初めて。
 鉄の惑星「地球」35億年前 現在の生物起源に遡るIron Roadの絶景。いまだ興奮冷めやらず。
 人工鉄・製鉄技術の起源の一番根元にあるシアノバクテリアと水中に溶けた鉄との共同作業。
 Iron Roadの出発点ともいえる鉄の惑星 地球の不思議との遭遇です。ここからIron Roadが始まると……



- ◎ 第58次南極観測隊 岡田雅樹博士からの贈り物 数万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷時をおなじくして、3月に南極から帰国直後の第58次南極観測隊副隊長兼越冬隊長 岡田博士から、南極氷が届いたこともうれしいニュース。こちらは 数万年も前の大気が閉じ込められた南極氷そのもの。水で溶けるときに「シュー」と音がし、光にかざすと 氷に閉じ込められた空気の泡がきらきらと輝いて見え、宝石のよう。
- 遠い昔の和鉄の道を思い浮かべつつ、南極氷の焼酎ロックで、うれしい一杯。
- また、家族・孫たちや近くの小中学生や仲間たちにも喜んでもらいました。



- 津名丘陵 舟木集落遺跡【弥生後期・終末期】 「国生み神話の島 淡路島」から「国生みの島」へ 日本国造り たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘めている
- 海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の中心



淡路島南部の三原平野からは弥生時代の終焉を告げると言われる大量の埋納銅鐸（松帆銅鐸）が出土。また、淡路島北部を南北に走る津名丘陵周辺から、弥生中期から後期にかけての大規模な鍛冶工房跡「五斗長垣内遺跡」が出土。そして、西に瀬戸内海東に大阪湾を見晴らす津名丘陵の尾根筋の上に 弥生中・後期舟木遺跡を中心とする鉄器加工や製塩・干イイダコなどの生産工房を持ち交易を生業とする山間地集落群が展開していることが明らかになってきた。

しかも 南北に走る津名丘陵の西側海岸部には航海術にだけ、大陸・朝鮮半島と初期大和王権と密接につなぐ役割をしたとみられる海人達の拠点があることも分かっている。

これらのことから、淡路島が当時最重要視された半島の鉄素材を中心とした交易を通じて、日本の国生みに大きな役割を果たしたとして、「国生み神話の島淡路島」から「国生みの島 淡路島」への期待がにわかに高まっている。

今この渦中の中心にあるのが、弥生後期から終末期津名丘陵の尾根筋に出現した山間地生産工房集落群野中心で、鉄器工房などの生産工房を有し、交易の中心とみられる舟木遺跡。また、発掘調査は一部ですが、その存在感は高まるばかり。是非現地に行ってみたいと思いつつ、中々行けなかったのですが、8月末 淡路島北西部 野島海人の本拠地 野島海岸から津名丘陵の尾根の上にある淡路市舟木集落・舟木遺跡の現地周辺 walk ができました。

舟木遺跡域の大半は私有地で立ち入れられませんが、西に野島海岸から瀬戸内を見晴らす尾根の上 古代から守り継がれている女人禁制の磐座を中心に樹木に包まれた小さな丘をいくつも連らね、舟木集落がありました。この磐座を中心に現在の居住域を除く集落の田園全体が遺跡でした。

また、発掘はごく一部ですが、舟木遺跡の現地調査資料や遺跡地図を眺めながら、遺跡域をめぐりました。日本の国造りの始まりそして ヤマトへの実用鉄器製造技術・たたら製鉄の源流を解き明かしてくれるタイムカプセルが目の前の森にある。また、古代からの姿をそのまま残し、今も女人禁制 村人たちにより 素朴な神事が守り継がれている舟木集落の中心 舟木神社の磐座の森にも感銘をうけました。

この舟木集落 「生活実態は変われども 村人たちによりいまでも古代の森・丘が守り継がれている。」いと強く感じました。また、調査はごく一部ですが、丘から見下ろす美しい眺めとともに、「日本の国造り たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘めている」「国生み神話の島淡路島」から「国生みの島 淡路島」へ 今後も淡路島の発掘調査に期待一杯。



● 和鉄の道・Iron road 日本各地の製鉄関連遺跡訪問 記事読み返しと地域レビュー



たたら跡 日本各地の製鉄関連遺跡 製鉄関連伝承などを訪ねて記事にしてきましたが、その数も膨大になり、また、同じことを繰り返し紹介していることも。そんな記事を時代を通して、その地域 そして人々の暮らしとどのようにつながり、どんな展開をもたらしてゆくのか…。すこし、掲載してきた資料全体をながめたいと日本各地の現地訪問記と

ともに、その地域について 記録してきたこと全体をリストアップし、読み返すことを始めました。
 現地訪問や鉄の地域研究レビューの資料などを見る機会を得て、「西播磨 宍粟の鉄」「近江の鉄」について、記事読み返し、整理とともに、掲載記事のリストアップ紹介をしました。
 私にとっては、気が付かなかった新しい視点・思い違いや間違いの発見など。
 できれば1編に整理してまとめたいのですが、なかなか頭回らず、とりあえずリストアップ。

- ◎ 和鉄の道・Iron road 『西播磨(宍粟・佐用)の鉄』 2018レビュー 2018.5.15.
 兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編 『ひょうご歴史研究室紀要』第3号◇特集「播磨のたたら製鉄」
- ◎ 古代たたらの故郷 湖北 伊吹山麓 たたらのに眠る「金太郎」伝承
 & 「近江の鉄」 和鉄の道掲載リスト 2018. 11. 12.
- ◎ 2018年節分に 仲間としての鬼に思う - 鬼にされた製鉄集団 2018. 2. 3.

● 番外 日本人の心の故郷 縄文 北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に
 一万年も平和で豊かな生活が続いた世界に類のない日本の「縄文」社会
 そのエンジンは「他人を思いやる心」だったである。



北海道・北東北の縄文遺跡群が2020年登録を目指すユネスコ世界遺産の日本申請候補に選ばれました。
 世界遺産登録へ一歩前進とうれしくなりましたが、
 残念ながら日本からの2020年登録推薦から外れました。
 なにか日本の政治に翻弄されているようで、気になりますが、引き続きご支援をお願いします

このほか、いろいろな姿を見せる現代の鉄にも出会いあえ、この1年色々思いを巡らしながらのうれしい「和鉄の道」。
 私にとっては、気が付かなかった新しい視点・思い違いや間違いの発見など。
 整理のつかない身勝手な記事ばかり。
 できれば1編に整理してまとめたいのですが、なかなか頭回らず、とりあえずのリストアップです。
 だんだん 行動半径も小さく、頭も回らずですが、「鉄」「たたら」をキーワードにした日本各地の探訪。
 まだまだ 好奇心もあり、うれしいIron Road です。
 よろしくをお願いします。

